

▲ 東亜ディーケーケー株式会社

環境保全と医療に貢献する総合計測機器メーカー

—— 当期純利益は6期連続の最高益、単月黒字の連続記録を11年以上更新中

ここに
注目!

pH計やPM2.5測定装置、透析用薬剤溶解装置などで国内トップシェア
各国の法規制に対応した計測機器を海外40カ国に販売

物質に生じる電気化学の反応量を検出する電気化学センサをコア技術に、環境計測から科学分析、医療など幅広い分野で活躍している計測機器メーカーが、東亜ディーケーケー（東亜DKK）株式会社である。pH計は国内の清掃工場の排水水質測定器で半分以上、PM2.5測定装置などの環境用大気測定装置は国内シェア約6割、人工透析に使われる薬剤溶解装置は市場シェア7割（OEM含む）を獲得するなど、研究開発型企業として数々の独自製品を生み出してきた。製品は水道、電力、医療などライフラインを支える施設で使われており、取引先は官公庁をはじめ、幅広い業種の企業にわたる。環境保全と医療という世界共通の重要テーマに挑み続ける総合計測機器メーカーである。

環境から医療まで領域を拡大

2020年10月、東亜DKKは合併20周年を迎えた。1944年設立の東亜電波工業株式会社

（TOA）と、45年設立の電気化学計器株式会社（DKK）という二つの計測機器メーカーが合併し、東亜DKKが誕生した。創業間もない1954年に、のちのベストセラーとなる卓上型pH計（2014年「分析機器・科学機器遺産」に認定）を発売したほか、63年には日本初の大気中NO_x計を開発して大気分析機器分野に参入、70年には日本初の河川水質監視装置を開発するなど、独自のセンサ技術による製品開発が特長だ。さらに1979年には臨床検査機器の発売で生化学・医療関連機器分野への参入を果たした。そして合併後の2005年には水質分析計の世界トップブランドメーカーである米国ハック社と資本業務提携を締結し、2018年にはメタウォーター株式会社より水道用水質計事業を譲受するなど、事業基盤を強化させている。

最大の強みは、水、大気、医療、ガスの4本柱で、卓上機器からフィールド機器まで多様な計測

機器を提供している総合メーカーとしての力と、開発、製造、販売からアフターサービスまで含めた一貫体制。特に目立つのが補修部品や保守・修理等アフタービジネスの売上比率。売上高全体の半分以上を占めており、機器販売だけでなく全国11カ所の営業拠点とサービス子会社によるきめ細かい顧客対応が、同社の収益安定化に大きく貢献していると言える。最近ではIoTを用いた遠隔監視、リモートメンテナンスが可能な水質計を拡販するなどアフタービジネスの拡大に注力している。そして成長分野として位置づけているのが医療分野。透析治療に関わる機器で実績を重ねてきたが、2017年に医療関連機器の新生産棟を稼働させ、透析用薬剤溶解装置の増産と新製品開発を加速化し、次の成長を呼び込む。

アジアの水質汚染、大気汚染に対応

「世界に選ばれる製品を生み出



勤続年数は、男性18.0年、女性18.6年と働きやすい職場環境だ



アジア最大級の分析機器・科学機器専門展示会「JASIS 2020」など国内外の各種展示会に出展



安全でおいしい水道水に必要な7つの検査項目を自動計測する装置で水道管路のいたるところに設置されている



大学・試験研究機関での化学分析や、生産ラインでの品質管理など主に実験室で使用される卓上型水質計



PM2.5測定装置は国内シェア約6割を誇り、韓国国家認証を取得するなど海外市場へも展開中

し、グローバルな競争力のあるブランド構築を目指す」（高橋社長）として、環境規制が強化されつつあるアジアを中心に、各国の法規制に対応する製品を開発し、海外事業の拡大も掲げる。提携しているハック社の中国現地法人を通じて10年以上前から河川の水質モニタリング用水質計を販売し、中国向け事業は大きく成長。また国内トップシェアを持つPM2.5測定装置の韓国対応モデルを韓国の地下鉄・仁川国際空港に納めたほか、インドでは大気汚染物質を監

視するモニタリングシステムや環境大気測定車向けの装置を拡販するなど、新たな動きを本格化させている。

ESG経営や働き方改革にも余念がない。脱炭素化の取り組みとして、2021年度中に、再エネ電力への切り替えやJ-クレジット制度を活用し、グループ全社の使用電力から発生するCO₂排出量の実質ゼロを目指す。また働きやすい職場環境づくりにも積極的に取り組んでおり、2018年に女性活躍推進優良企業「えるぼし（3

つ星）」認定、2019年には健康優良企業「銀の認定」を取得。在宅勤務や時差出勤、時間単位の有給休暇制度も導入しており、残業時間の低減（2020年度平均残業時間5.1h/人・月）や有給休暇の取得奨励（2020年度有休取得率69.2%）でワークライフバランスの実現を推進中。働く環境の整備とともに国際的に活躍するための人材育成を通じて、地球環境の保全と人にやさしい社会の実現に向けて貢献し続ける東亜DKKを目指していく。

わが社を語る

代表取締役社長
高橋 俊夫氏



コア技術を磨き、医療や畜産などの新分野で革新製品を生み出す

当社の製品を目にする機会は少ないと思いますが、当社グループは、環境大気の測定や水道水質の監視などで皆さまの生活の安全安心を見守っています。現在は、新たな事業の柱として、病気の早期発見につながる医療検査機器や、工業化が進む畜産業や農業での安全性・生産性の向上に寄与する計測機器開発と市場開拓を進めるなど、新たな成長に向けて取り組んでおりま

す。これからも70年以上培ったコア技術をさらに磨き上げ、市場において「圧倒的なトップ」となりうる新製品を生み出すことで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

会社 DATA

所在地：東京都新宿区高田馬場1-29-10
 創立：1944（昭和19）年9月19日
 代表者：高橋 俊夫
 資本金：18億4,248万1千円（東証1部上場）
 売上高：連結：159億88百万円（2021年3月期）
 従業員数：連結：571名 単体：381名（2021年3月31日現在）
 事業内容：計測機器（環境・プロセス分析機器、科学分析機器）の製造・販売、医療関連機器の製造・販売、計測機器の部品・消耗品の販売、計測機器のメンテナンス・修理、不動産賃貸事業
 URL：https://www.toadkk.co.jp

